ピカチュウがヒトカゲでヒトカゲがピカチュウ！？～番外編～

将

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピカチュウがヒトカゲでヒトカゲがピカチュウ！？～番外編～

【Nコード】

N8032V

【作者名】

将

【あらすじ】

「ピカチュウがヒトカゲでヒトカゲがピカチュウ！？」の番外編です。

キャラ紹介や二人が入れ替わる前のエピソードなどを書く予定です。本編と合わせて読んでくれると嬉しいです。

まずはじめに…

え〜と…。この番外編はキャラ紹介や二人が入れ替わる前のエピソードなどを中心にお届けしたいと思ってます。

面白そうだな〜と思ったのだけを見るのもよし、全部見てもよし。

更新は思いつきでしかも不定期！！

適当、そして駄作の場合もあります。

ピカチュウ（ヒト）「自分で自分の小説批判してどうする！！」

まあこんな感じですがこの番外編を見て面白いと思っただ方、ぜひぜひ感想をくださいね！！

ヒトカゲ（ピカ）「こんな駄作者に感想くるかなあ？」

グサッ

と…とにかくよろしくお願いします…。

ヒトカゲ・ピカチュウ「よろしくお願いします！！」

キャラ紹介！〜ヒトカゲ編〜

さて、まずは主人公その一ヒトカゲの紹介です。

ヒトカゲ「このコーナーでは一時的に体が元に戻るんだな。」

まあヒトカゲの紹介なのにピカチュウの体じゃ変でしょ？

ヒトカゲ「それもそうだな。」

ではヒトカゲについてお話しします。

彼の性格は熱血で遊ぶことが大好き！！勉強はやや苦手です。テストではピカチュウに何回も負けています。一人称は「オレ」。

時に涙もろい一面も見せることがあります。他人には絶対に見せません。親友のピカチュウにも。

ピカチュウとは幼馴染おさなじみで5〜6歳から友達です。

現在11歳。人間で言うと小6。

しかし入れ替わった後のヒトカゲの体（中身はピカチュウ）は声はヒトカゲの声のままだがまじめで優しく少しかわいいヒトカゲとなってしまうのです。

ヒトカゲ「中身ピカチュウのオレ…。こんなに変わるとは思ってたよ。不覚にも自分がかわいいって思っちゃった。」

自分でも書いててこんなにかわいいとは思わなかった

ヒトカゲ「ひのこ!」

ぎゃああああ!初めて作者肅正~~~~!!他のプロ作者さんもやってましたね!ガクツ。

ヒトカゲ「あゝあ。作者さん気絶しちゃった。あ、今回はピカチュウのキャラ紹介の予定だ!お楽しみにな!」

ピカチュウ「お楽しみに」

ヒトカゲ「 ” って…(汗) 」

キャラ紹介！〜ピカチュウ編〜

今回は主人公その二ピカチュウの紹介です。

ピカチュウ「丁寧な紹介をお願いします。」

は、はい…。では、ピカチュウについて話します。

彼の性格はまじめ。遊ぶことも好きですが、勉強も好きでヒトカゲに何回も勝っています。（ちなみに100勝0敗）一人称は「ボク」。

ナエトル（後に番外編に登場します）とは犬猿の仲で彼を見ると性格が変わり、ヒトカゲ以上に怒り狂います。つまり二重人格。怒り狂ってる間のことは何も覚えていない。

ヒトカゲとは公園で出会った。（5〜6歳の時）

現在12歳。ヒトカゲと同じく人間で言うと小6。ヒトカゲよりも早く生まれた。

入れ替わった後のピカチュウの体（中身はヒトカゲ）は
声はピカチュウの声のままだが少々口が悪いピカチュウになってしまいました。

ヒトカゲ「少々口が悪いは失礼だろ！！」

ピカチュウ「でもボクの体のヒトカゲくんってちょっとかつこいいよ。ボクってしゃべり方だけでこんなに印象が変わるんだな。」

ヒトカゲ「そ、そうか？（照）」

あ、赤くなってる〜。

ヒトカゲ「元々顔は赤いんだよ！ひのこ！」

ぎゃあああ！！また〜！！？

ピカチュウ「また気絶しちゃった。次回はボクとナエトルくんについてのお話だよ。」

ヒトカゲ「つまり、オレたちが入れ替わる前の話だな。」

お…、お楽しみに…。

ヒトカゲ・ピカチュウ「お楽しみに〜。」

鼠亀（そき）の仲！？（前書き）

今回は入れ替わる前のストーリーをお届けします！！
タイトルは犬猿の仲ではなく鼠亀そきの仲です。

ヒトカゲ「鼠（ねずみ）ピカチュウ」と亀（かめ）ナエトル）のこ
とらしいぜ。」

ピカチュウ「字難しいね…。」

ピカチュウの二重人格の謎が今明らかに！！
それでは番外編第一話スタートです！！

鼠亀(そき)の仲!?

これはピカチュウとヒトカゲが入れ替わる前の話。

ピカチュウとヒトカゲが人間の年齢で言う小4の時、つまり二年前のことだった。

ヒトカゲ「う〜ん。今日もいい天気だな〜!!」

ピカチュウ「うん!絶好のお散歩日和だね。この天気がいつまでも続いたらいいのに」

???「おい!!」

ヒトカゲ「ん?」

ピカチュウ「誰?」

二人が振り向くと、一匹のナエトルがいた。

ナエトル「オレはナエトル。お前らが仲良しのヒトカゲとピカチュウか。噂うわさで聞きいてるぜ。町内一仲つながいいんだってな!」

ヒトカゲ「そうだけど…。」

ピカチュウ「ボクたち、すごく仲がいい親友なんだよね〜。町内一だなんてそんな…。」

ナエトル「ほめてねえよ!!オレは10年間ずっと一人ぼっちだっ

たんだ！！お前らみたいな町内一仲がいい親友とか見るとむかつくんだよ！！だからその友情、ぶっ壊してやる！！まずはピカチュウ！！オマエから相手だ！！はっばカッター！！」

ナエトルはいきなりピカチュウに攻撃してきた。

ピカチュウ「うわぁ！！」

ヒトカゲ「ピカチュウ！！大丈夫か？」

ピカチュウ「う…うん。大丈夫。」

ヒトカゲ「てめえ！！嫉妬しっどしてんじゃねえよ！！」

ナエトル「うるさい！！お前らの友情はまじでクソだ！！ただ遊んだりしてるだけだろ！！それにおまえの親友のピカチュウ、まじで弱そうだな！！ヒトカゲから相手にすると炎タイプだから簡単に倒されそうだからな！！弱そうなピカチュウから攻撃しようってことなのさ！！ヒトカゲも強そうだけど性格馬鹿そうだしな！！」

ヒトカゲ「馬鹿って言うな！！」

一方ピカチュウは考えていた。

ピカチュウ（ボクたちの友情がクソ…！？ボクが弱そう…！？ヒトカゲくんの性格が馬鹿…！？）

そのとき、ピカチュウの何かがぷつんと切れた。

ピカチュウ「おい、クソ亀！！ボクたちの友情がクソだと？オマエ

が一番クソだ！！ボクが弱い！？ハア？ボクが本気出すと強いよ！
！あと、ヒトカゲくんの性格は馬鹿なんかじゃない！！あいつは優しいやつなんだ！！ボクとヒトカゲくんの悪口言うやつは許さん！
！これでもくらえええええ！！10万ボルトおおおお！！」

さっきまで優しかったピカチュウが初めて怒った瞬間だった。
そして10万ボルトは見事ナエトルに命中！！

ナエトル「ぎゃあああぁぁぁぁぁぁ！！」

ヒトカゲ（す、すげえ……。あいつが怒ったところはじめて見たぜ……。
てか、あいつ二重人格だったんだな……。ここまで性格が変わるとは
……）

ピカチュウ「二度と来るな。クソ亀。」

ナエトル「くっ……。覚えてろよ！！」

ナエトルは逃げるように去った。

ヒトカゲ「お〜〜い！！ピカチュウ大丈夫か？」

ピカチュウ「あ、あれ？ヒトカゲくん、ボクは何を……？」

ヒトカゲ「覚えてねえのかよ。」

ピカチュウ「うん。全然。」

ヒトカゲ「まあ……。ナエトルがいなくなって良かったぜ。しかし、
あいつまた来そうだな……。大丈夫かな？」

ピカチュウ「大丈夫だよ！！ボクとヒトカゲくんの友情は誰にも負けないよー！！」

ヒトカゲ「そ…そうだな！！あははは…。」

ピカチュウ「あははは…。」

二人は約一分間笑い続けた。

その後、ナエトルがリベンジに来るが、ピカチュウはナエトルを見ると性格が変わるようになってしまったため、あっけなく倒されたという。(三度目以降も同じ)

鼠亀(そき)の仲！？(後書き)

ヒトカゲ「ナエトルうざかったな。」

ピカチュウ「ボクたちの友情を馬鹿にするポケモンは誰だろうと許さないよ!!」

さて、今回は本編を更新するので、次の番外編は思いつきで更新します。いつかは未定です。

ピカチュウ「次は本編で会おうね。」

ヒトカゲ「番外編で初めてこの小説を知った人は本編もちゃんと読んでくれよな!!」

キャラ紹介〜三馬鹿編〜

今回はヒー、チー、ミーからなる「三馬鹿」を紹介します。

三馬鹿「誰が三馬鹿だ!! (怒)」

おお怖っ (汗) 本当はフシギダネとゼニガメから紹介する予定だったんだけど面白そうなのでこっちからやるうと思えます。

まずは、ヒノアラシの「ヒー」です。

彼はクレヨ しち がモデルです。

かわいい女の子を見かけるとすぐナンパをします。振られてもナンパをし続けます。一人称は「オイラ」。

バトル(だけ)には熱くなります。必殺技は「火炎車」など。

ヒー「今小声でなんか言わなかった…?」

気のせいです。次はチコリータの「チー」です。

彼女はヒーとは逆にイケメンを見つけるとナンパをしてきます。一人称は「アタシ」。

そして、料理がものすごく下手です。

ドラ も のジ イア みたいにカレーやハンバーグなどにイチゴ大福やキムチなどを入れてきます。(というかぶち込む)

ヒーやミーも食べたことがあるのですが食べたなら三日間入院したそうです

ヒー・ミー「……」

ニックネームをつけるのが好きでヒーには「ヒーちゃん」、ミーには「ミーちゃん」、ゼニガメには「ゼニちゃん」など……。名前から二文字を借りるニックネームが好きだそうです。

ちなみにフシギダネのニックネーム、「フシちゃん」は言いにくいことから「ダネちゃん」と呼んでいる。

最後はミスゴロウの「ミー」です。

彼は超おっとりマイペース。寝ることが大好きでの 太のように毎日昼寝をすることが多い。一人称は「ボク」。

待ち合わせなどには必ずと言っていいほど遅刻をするのんびり屋さん。

モデルは「ポケモン4コマ大百科」（知ってる人いるか？）という漫画に出てくるヤドンとヌオーがモデルです。

彼らも超のんびり屋さんですよ。ミー以上に（笑）

はい、終了。

チー「作者さん……」

ん？

チー「アタシの料理はそこまで下手じゃないわよ!!」「ソーラービーム」!!」

ぎゃああああ!!何でええええ!!

ヒー「チー…(汗)というわけでみなさん。これからもボクたちをよろしくね!!」

ミー「よろしくね〜。zzz…。」

ヒー「また寝ちゃった(汗)」

キャラ紹介！〜ゼニガメ&フシギダネ編〜

まさかの一日二連続投稿！！

本日二度目となる今回はヒトカゲとピカチュウが入れ替わった森と同じ森で入れ替わったフシギダネとゼニガメを紹介します。

ゼニガメ「なんで三馬鹿が先に紹介されるんだよ（怒）」

フシギダネ「まあまあ…。」

（無視！！）え〜まずはゼニガメからです。彼の性格は少しヒトカゲと似ているところがありますが、違うところもあります。

ヒトカゲと違ってかつこ悪いところを見せるところがあります。

フシギダネに習ってもらったおかげか料理が出来る。

得意料理はホットケーキなど。

ゼニガメ「そうだよ。オレこう見えてホットケーキが得意料理なんだぜ！！」

フシギダネ「ワタシが教えたの。ゼニガメくんったら最初夢中になりすぎて五個も作っちゃったのよ。」

ゼニガメ「食べるのに一苦労だったぜ…。」

次はフシギダネです。

彼女の両親は木の実のお菓子を売ってるお店をやってます。

そのため、たまにゼニガメと木の実を探しに行くことがあります。

料理がうまく、ゼニガメに教えることもある。

得意料理は木の実のクッキーやプリンなどのスイーツ。

彼女は性格がおしとやかで声がかわいいのです。

フシギダネ「ワタシが作った木の実のクッキーを食べたい読者さんはぜひ感想欄へ!！」

ゼニガメ「宣伝かよ(汗)」

こんな恋人未満(?)の二人ですがこれからもよろしく願いしm

ゼニガメ「みずでっぽう!！」

いだだだだだ!！」

フシギダネ「あゝあ。作者さん逃げちゃった。ちなみにワタシたちが入れ替わる前のエピソードも番外編で作る予定ですって!楽しみに待ってくださいね」

三馬鹿との出会い（前書き）

今回はゼニガメとフシギダネの視点でお送りします。

ゼニガメ「初めてだな。オレらの視点って。」

三馬鹿との出会いの秘密が明らかになります！！
では番外編第二話スタートです！！

三馬鹿との出会い

これは、ゼニガメとフシギダネが入れ替わる前のお話。

ゼニガメ「今日も平和だな。」

フシギダネ「そうね。」

そのとき、誰かの悲鳴が…。

????「きゃ〜!! 助けて〜!!」

フシギダネ「!?!」

ゼニガメ「誰かが呼んでる!?!」

二人は呼ばれたほうへ急いだ。

????「助けて〜!!」

????「チー!! 大丈夫? どうしよう…、オイラ炎タイプだから泳げないしミィは肝心なときに寝ちゃってるしどうすれば…。」

なんと、チーと呼ばれたチコリータが川でおぼれている。ちなみにのセリフはヒノアラシのヒーである。

ゼニガメ「お〜い!! そのチコリータ〜!! 大丈夫か〜!?! 今助けけるから待ってる!?!」

ゼニガメは川へ飛び込んだ。(ちなみにもろ腹打ち。あれは結構いたいのである)

ゼニガメは必死に泳ぎなんとかチーを助けることに成功した。

ゼニガメ「おい！大丈夫か？」

チー「うゝ…うん。大丈夫。助けてくれてありがとうございます。」

ゼニガメ「良かったゝゝ！！」

フシギダネ「ゼニガメくん大活躍だったね ヒーローみたいだよ！」

ヒー「あ、あの…。チーを助けてくれてありがとうございます。」

ゼニガメ「い、いやいや…。オレ、困った人見ると放っておけないから…。」

ヒー「あ、自己紹介でもするね。オイラはヒノアラシの“ヒー”。よろしくね。」

チー「さっきは助けてくれてありがとうございます。アタシはチーリータの“チー”。よろしくね。」

ヒー「で、そこで寝ているミズゴロウが“ミー”っていうんだ。」

ミー「ZZZZ…」

ゼニガメ「あ、オレはゼニガメ！よろしくな。」

フシギダネ「ワタシはフシギダネです。よろしくね。」

これがゼニガメ&フシギダネと三馬鹿の出会いだった。
そして三日後…。

ヒー「やつ！ゼニガメくん！！今日はゼニガメくんの家に泊まることになったからよろしくね！！」

チー「よろしく」

ミー「ZZZ…」 家に来てすぐ眠る

ゼニガメ（あいつらはとんでもない馬鹿だった…。助けたお礼とか言って毎回オレとフシギダネの家で交互に泊まりやがって…。あいつら助けなきや良かったのかな…？）

ゼニガメとフシギダネは彼らを助けたことで不幸のどん底に落ちたのであった。

それ以来、ゼニガメは彼らのことを“三馬鹿”と呼ぶことにした。

三馬鹿との出会い（後書き）

ゼニガメ「助けたことが最悪の出会いを巻き起こすとは思わなかったぜ…。」

そうだね。次回はピカチュウのライバル、ナエトルがなぜ10年間一人ぼっちだったのかが明らかになります。

ヒトカゲ「あれ？本編は？」

本編のアイディアが浮かばなくてなぜか番外編のアイディアが浮かんでくるという…。

ヒトカゲ「ひのこ…！」

ぎゃああああ！！ 黒焦げ

普段のナエトル（前書き）

はっ、初めて1週間更新されなかった…！

ヒトカゲ「作者、学校が始まったからな。」

はい。そして、あさってからテストなんです…！

ヒトカゲ「あゝらら。では気を取り直して、番外編第三話スタートです…！」

あ、台詞とられた（汗）

普段のナエトル

7年前。

ドダイトス「ナエトル、母さんはオマエを産んだ後、死んでしまった。これからはママの分もパパがたくましく育ててやるからな!!」

ナエトル（2歳）「わ〜い！パパありがとう!!」

しかし。

ナエトルの父、ドダイトスは事故に遭い、亡くなった。

その後、彼は一人で暮らすことになった。

そのことを、ナエトルは思い出していた。

ナエトル「はあ...。」

ナエトルは深いため息をついた。

ナエトル「父さん...。今どうしてる？天国ってどんなところなのかな？」

そうつぶやきながら、ナエトルは朝ごはんを買いに行った。

ナエトルは父が死んでから10年間一人ぼっち。

そのため朝、昼、晩は全部買い物で済ませている。

お金は親戚から毎日送られてくる。（親戚は金持ちらしい）

10年間一人のため、幸せなポケモンや、仲良くしてるポケモンが大嫌い。（つまり嫉妬している）

そして、スーパーに着いた。

ナエトル「今日は半額のパンかな。」

そう言い、半額の食パンをかごに入れた。

そして、買い物を済ませた後は、家で朝ごはんを食べるのだ。

ちなみにパンとご飯を毎日交互に食べている。(つまり、月曜はパン、火曜はご飯、水曜がパン…ということ)

昼は主にカップラーメン。夜は出前などで済ませることが多い。

そして、眠りにつくのだ。

そして、数日後。ナエトルは町である噂を耳にする。

ポケモン1「ねえ、あのピカチュウとヒトカゲ、町内一仲がいいんだって。」

ポケモン2「本当？確かに仲よさそうにしてるわね。」

ナエトル(なに！？あのピカチュウとヒトカゲ町内一仲がいいのか！？くそお…。オレは幸せなやつらが大嫌いなんだ！…よし。あいつらの幸せ、オレがぶち壊してやる！！)

そう言いながらナエトルはピカチュウとヒトカゲに近づいた。

普段のナエトル（後書き）

はい、ここまでです。

この続きは番外編第一話「鼠^そ亀^{かめ}の仲！？」で明らかになります。

まだ読んでないという人は一回最初から読み直してはいかががでしょうか？

今回は久々に本編を更新予定です。（いつかは未定）

ヒトカゲ「やっとか。」

今までアイディアが浮かばず半スランプ状態に陥^おつてたから…。

ピカチュウ「頑張^{がんば}ってね作者さん。」

はっい。

ヒトカゲ「テンションダウンかよ（汗）」

キャラ紹介〜アツミ編〜

今回はヒトカゲの初恋の相手、アチャモのアツミを紹介します。

彼女は優しくくて、笑うとかわいい女の子です。

実家はレストラン。そのため、食べることが大好きで、料理を作るのは父親のバシャーモと母親のワカシャモの共同作業です。

友達と待ち合わせしていた途中にピカチュウの体のヒトカゲとぶつかり、一目ぼれされました。

ちなみに、バトルになると結構強い。

今日はこれしかかけなかった(汗)

今回は少ないですが、見てくれただけでも感謝です！！

実は、ヒロインキャラって一度作ってみたくて(笑)

入れ替わったままで恋をするとどうなるかなあ〜って思い、恋をさせました。

かわいくて優しい御三家ということで、ヒトカゲと同じ炎タイプのアチャモに決まりました。

さあ、ヒトカゲとピカチュウは果たして元に戻れるのでしょうか！？
そしてヒトカゲはアツミに告白できるでしょうか！？

本編はクライマックス突入予定！！

キャラ紹介〜アツミ編〜（後書き）

はい。活動報告でもしましたがお詫びです。

アイディアが浮かばずスランプに近い状態になりました。

なので、この小説は30話未満で終わる可能性が高いです。

こんな駄作者で、申し訳ございませんm(´`)(´`)m

それでも僕を応援してくださるのであれば、コメントをください。
コメントを書いてくださると、飛び上がるかもしれません

秋と言えば…（前書き）

はい。ものかきさんからバトンを受け取りました。

「季節」をテーマにショートストーリーを作るそうです。

現在、本編を執筆中なのですが、こつちの方がやりやすかったの
先にこつちから投稿しちゃいました。

あ、ちなみにこれは「ピカヒト」が完結した後のストーリーとなっ
ております。

では、どうぞー！

秋と言えば…

1・秋と言えば…。読書の秋!!

ピカチュウ「ねえヒトカゲくん、カラカラコミック次貸してよ。」

ヒトカゲ「ダメ。もうちょっとだけ。今「ぼんこつポケモンたちのダメダメ探検隊」を読んでるんだから。」

ピカチュウ「え〜。けち〜。」

ヒトカゲ「けちで悪かったな。もうちょっとで貸すから。」

ピカチュウ「…クレ　し　ち　のみ　えみたいだね。」

ぶちっ。

ヒトカゲ「誰がクレ　し　ち　のみ　えだつてええええ!!」

ピカチュウ「あ、ちよつと言い過ぎたかな…。(汗)」

ヒトカゲ「待てええええ!!」

ピカチュウ「ぎゃあああ!!逃げろ〜〜!!」

読書の秋関係なくなりました　おい

2・秋と言えば…。食欲の秋!!

フシギダネ「はい皆さん。クッキーですよ。秋なので、少し量を多めにしております。」

ゼニガメ「少しじゃねえよ!! だいが多いよ!! 作りすぎ!!」

ピカチュウ「まあまあ、気にしない気にしない 食べようよ」

5分後。

フシギダネ「はあく〜。おいしかった。」

ヒトカゲ・ピカチュウ・ゼニガメ「……………」。(フシギダネ(ちゃん)が一番食べてた…。なんちゆう食欲…)「

フシギダネが意外と大食いという新たな一面が見れました。

秋と言えば…（後書き）

どうでしたか？

後これはバトンなので、回したいと思います！！

回す人はフリーにします。誰でも受け取ってくださいね。
では！！

主人公たちの名前紹介！！

どうもです。みなさん。将です。

おかげさまで「ピカヒト」が完結いたしました。

今回は、最終話でわかったヒトカゲたちの名前について紹介します。

まず、ヒトカゲの「カゲト」。

名前の由来は…。ただ単に「ヒトカゲ」をもじっただけです。（殴

でも「カゲト」ってかっこいい名前だなあ〜と思っております。

他の作者さんも使っただけですけどね（汗）

次に、ピカチュウの「コウキ」。

ピカチュウを直訳すると、「光るネズミ」。

それで、光り輝くという意味で「コウキ」（光輝）と名づけました。

案外普通の人間の名前になってしまいました（笑）

次は、ゼニガメの「カンタ」。

彼は何か性格が「とり」の「ト」の「口」の「かんた」に似てたことから名づけられました。

はい。思う存分馬鹿とっていただいて結構です。

次はフシギダネの「ハナ」。

彼女は普通にフシギバナに進化することから「ハナ」という名前にしました。

シンプルですよ。

最後にアチャモの「アツミ」。

アチャモ「女の子。アチャモ」熱い
ということから最初は「アツコ」という名前にしたかったんですけど、
が、某アイドルグループのメンバーとかぶるので、「アツミ」に
しました。

はい。ここまでです。

次は、最後の番外編、「カゲトとアツミの結婚式」でお会いしまし
よう!!

では!!

結婚式〜そして、続編へ〜（前書き）

はい。今回で番外編も最終回です。張り切って作ったら正直、本編の最終回より長い文章になってしまいました…。すみませんでした

m (((m

今回はカゲトとアツミの結婚式となっています。

今回からコウキの彼女も登場しますよ！！

そして、最後には続編を予告させるものが…！？

最後の番外編、スタートです！！

結婚式〜そして、続編へ〜

「????」はあっ…、はあっ…。」

一匹のライチュウが紙らしきものをもちながら走っていた。

「????」カゲト…。待っててね。」

そう。彼はカゲトの親友、コウキ。彼はピカチュウから進化し、ライチュウになっていた。

ちなみにこれは「ピカヒト」から7年後の物語である。

コウキは19歳。現在、塾で臨時教師として雇われている。声も7年前より男らしい声になっていた。

「????」待ってよ。コウキ〜!!」

コウキ「あ、ノゾミ…。」

彼女はコウキの婚約者、デンリュウのノゾミ。

年はコウキより年下の18歳。1つ後輩である。

ノゾミ「もう!!!いくら親友の結婚式だからって、そんなに急ぐことないでしょ!」

コウキ「あはは、ごめんね。」

ちなみに今日はコウキの親友、リザードンのカゲトとその彼女、ワ

カシャモのアツミの結婚式である。

なんと7年間も付き合い、ようやく結婚へといたったのだ。

ちなみにコウキが持つてる紙は結婚式の招待状である。

コウキ「でも、あいつはずっと仲良くしてきた親友なんだ。あいつの結婚式のためにも、遅刻はしちゃいけないんだ。」

ノゾミ「コウキ…。」

コウキ「急ごうノゾミ!!早くしないと怒られちゃうよ。」

ノゾミ「うん!!」

二人は結婚式会場へと急いだ。

そして、結婚式会場に着いた。

コウキ「はあっ…。はあっ…。ぎりぎりセーフ…。だね…。」

ノゾミ「はあっ…。はあっ…。死ぬかと思った…。」

????「おっ!!コウキか!?!」

コウキ「えっ!?!あっ!!カゲト!!」

カゲト「久しぶりだな!!何年ぶりだ!?!」

コウキ「まだ1年しかたってないよ。」

カゲト「ははは！！そうだったな！！で、そっちのデンリユウは？」
ノゾミ「はっ！！はじめましてカゲトさん！！ワタシ、コウキとお
付き合っています、ノゾミっていいいます！！」

カゲト「へっ…！？オマエ、彼女できたの！？」

コウキ「う、うん…。内緒にしててごめんね。」

カゲト「やったな！！オマエもとうとう彼女か…。」

コウキ「そういうカゲトだって、これから結婚式始まるんでしょ？」

カゲト「そうだった！！いけねえ！！アツミたちに迷惑をかけちま
う！！じゃあまた後でな！！」

ノゾミ「いい人だね…。」
ポケモン

コウキ「うん。カゲトのことを一番わかってたのはボクだからね…。」

そして二人は、指定された席へと座った。そこにいたのは…。

???「おっ！！コウキじゃねえか！！」

???「お久しぶりです！！コウキさん！！」

コウキ「あっ！！カンタクんにハナちゃん！！元気だった？」

そこにいたのは、カメックスになったカンタと、フシギソウになっ

たハナだった。

カンタ「おい、隣のデンリュウは誰だ？」

ノゾミ「はじめまして。コウキとお付き合いしています。ノゾミっていいです。」

ハナ「コウキさん、彼女が出来たんですか!？」

カンタ「ははは!?!ダブルでめでたいぜ!?!」

コウキ「あはは、ありがとう。」

ノゾミ（なんか楽しい結婚式になりそうだな…。）

司会者「さて、これより、リザードンのカゲトさまと、ワカシャモのアツミさまの結婚式を始めさせていただきます。どうぞ、盛大な拍手を!?!」

ぱちぱちぱちぱち。

少し省略します。長いので。

司会者「さて、次は、誓いの言葉とキスです。みなさん!?!もう一度盛大な拍手を!?!」

ぱちぱちぱちぱち。

教祖「カゲトさん、あなたはアツミさんを永遠に愛することを、誓いますか?」

カゲト「はい。誓います。」

教祖「アツミさん、あなたはカゲトさんを永遠に愛することを誓いますか？」

アツミ「はい。誓います。」

教祖「では、誓いのキスを。」

教祖はそういった後、カゲトとアツミは唇を交し合った。

「わああああ~~~~!!」

「おめでと~~~~!!」

カゲト「ありがとうございます皆さん!!絶対にアツミを……。アツミを幸せにします!!」

そして、結婚式終了後。

コウキ「おめでとカゲト!!アツミちゃんと幸せになってね!!」

カゲト「ああ!!もちろんさ!!」

ノゾミ「ワタシたちの結婚式にもぜひ来てくださいね。」

カゲト「ああ!!夫婦ともどもお邪魔するぜ!!」

アツミ「はい。絶対に来ますね。」

そして、一年後。

カゲトとアツミの家。

アツミ「やっぱり嬉しい！！子供ができるなんて！！」

カゲト「ああ！！熱い気持ちでいっぱいだぜ！！」

アツミ「熱い…、気持ち…。そうだわ！！」「アツ」「い」「キ」もちからとって“アツキ”っていうのはどうかしら？」

カゲト「アツキか…。いい名前だな！！決まりだ！！今日からオマエの名前は、“アツキ”だ！！」

コウキとノゾミの家。

コウキとノゾミは結婚し、結婚式も挙げ、カゲト夫妻同様、子供ができていた。

コウキ「か…。」

ノゾミ「でも、案外かわいいよ」

コウキ「そうだな…。ははは。」

ノゾミ「ふふっ。愛に満ち溢れてるような顔をしてるわ。」

コウキ「愛…。そうだ！！」「アイ”っていうのはどうだ？」

「ノゾミ」アイか…。すごくぴったりな名前ね！！じゃあ決まり！！」
「コウキ」アイ！！よろしくね。」

これが、12年後の続編の世界につながることを、まだあの夫婦2組は知らない…。

番外編最終回、完。
そして、続編へ。

結婚式〜そして、続編へ〜（後書き）

いかがでしたか!?

今回は「本当の最終回」ということで、僕の小説史上初の2000文字超えとなりました!!

そして、ここからは、続編につながります!!

これを読んだ方は、ぜひ続編である「CHANGE!〜ピカピト続編〜」を読んでいただけると嬉しいです!!

そして、今まで番外編を読んでくれた方、本当にありがとうございました!!

それでは!!続編でまたお会いしましょう!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8032v/>

ピカチュウがヒトカゲでヒトカゲがピカチュウ！？～番外編～

2011年11月13日19時22分発行